



未来の自分に出会う冬



(詩集「道程」より)

しみ透れ、突き抜け
火事を出せ、雪で埋めろ
刃物のやうな冬が来た

冬よ
僕にまい、僕にまい
僕は冬の力、冬は僕の餌食だ

きりきりともみ込むやうな冬が来た
人にいやがられる冬
草木に背かれ、虫類に逃げられる冬が来た

きつぱりと冬が来た
ハツ手の白い花も消え
公孫樹(いちちょう)の木も帯(ほうき)になった

冬が来た

高村 光太郎

今、学校ではイチョウの木が太陽の光を受けて黄金色に輝きながら次々と葉を落としています。武道館前のひときわ背の高いポプラの木はほとんど葉を落とし、逆さにした庭ぼうきのようです。

今年は台風や大雨が多かったせいかゆっくり秋の気配を感じることもなく、いつの間にか冬の訪れを感じる季節になってしまったような気がします。毎年3年生の昇降口付近を大きな枯れ葉でいっぱいにする体育館前のプラタナスの木もすっかり葉を落としてしまい、今では残りわずかな葉が、枝先で枯れ落ちる順番を待っているかのようにしがみついています。

学校の敷地内にはたくさんの樹木があるので、この時期の落ち葉は日々相当な量になります。そこで本校では、毎年美化委員を中心に10月下旬から朝の落ち葉掃きを行っています。今年もあと一週間で終了となりますが、これまで、美化委員以外にも多くの生徒が自主的に参加してくれました。特に3年生は、各学級の美化委員や学級委員の呼びかけで毎日大勢の生徒が参加してくれていて、昨日も60人以上の3年生が7時半から8時まで、30分間の作業に参加してくれました。3年生担当の最終日だった昨日は、作業の終わりに学年委員長の石丸将人君(3-5)から、参加した3年生全員に倉庫前で次のような挨拶がありました。

「受験勉強で忙しい中、そして寒い中、朝から落ち葉はきに参加してくれてありがとうございます。この後は、みんなで卒業するまで船中がきれいな状態であることを目指しましょう。」



葉をすっかり落とした冬の木々は、今まで葉に覆われて見えなかった上の方まで太い枝が伸びているのがよくわかります。あらわになった木肌とゴツゴツとした枝ぶりは、樹木が本来持っている力強さに満ちています。そしてどの木も青空に向かって細い枝を伸ばしていて、まるで未来へ向けて懸命に手を伸ばしているかのようです。

中学生も見えないところで懸命に成長しています。昨日の朝の3年生の姿を見て、いよいよ訪れた冬に向けて逞しく立ち向かう3年生の決意を見たような気がしました。